

イノベーション探究基礎 講義③「論題（目的）及び仮説の設定」

<講義のポイント>

- 1) **テーマの明確化** ……深く興味深い研究にするため、テーマを漠然としたものにしない！
- 2) **論題の設定** ……より良い論題を設定するための5W1H法に
- 3) **仮説の設定** ……ブレない探究を進めるための仮説を立証するための4Q5法

I. テーマの明確化

『キーワード』から『大まかなテーマ』が決定することで、探究活動の入口に入りました。「テーマ」の次に、『論題』を設定し、『仮説』を立証して、本格的な探究活動にはいることになるのですが、『大まかなテーマ』では、『論題』や『仮説』もぼやけたものになります。

さらに『明確なテーマ』にしてから、『論題』や『仮説』の設定に入りましょう。

<漠然としたテーマ>

- ・テーマを『音楽』とすると……研究対象がありすぎて、何をすれば良いか不明確
- ・そこでテーマを『効率のよい勉強のために音楽をどう利用できるか』にしてみると研究の方向性が

「
」
のように見えてくる。

II. 『テーマ』から『論題(目的)』の設定へ

論題（目的）設定の意義

【不適切な論題】次のような『論題（目的）』は設定しないように気を付けよう。

- ① _____ 論題 例：平和とはなにか 「何をもって結論とするのか？」
- ② _____ 論題 例：量子コンピュータの高速化は可能か
「量子の知識がないと議論ができない」「実験の設備が三高にない」
- ③ _____ 論題 例：今年、楽天イーグルスは優勝できるか
「神のみぞ知る、根拠となるものが曖昧」
- ④ _____ もの 例：どうすれば成績があがるか
「やり方」を示すのは探究ではない
- ⑤ _____ もの 例：日本における土着宗教の種類
「調べた事項の羅列で終わってしまう」

論題（目的）設定の方法 5W1Hのピリヤード法

例：キーワード＝『広告』⇒文献調査⇒テーマ＝『インターネットによるマーケティング』

ぶつける質問		取り出される仮の論題
Who		どのような企業が積極的に行っているのか 誰をターゲットとしているのか
What		何をもってネット・マーケティングというのか
When		ネット・マーケティングはいつごろから始まったのか
		今のまま、将来も有効な販売戦略となり得るのか
Where		盛んに行われている地域や国はどこか
Why		なぜインターネットによるマーケティングをするようになったのか
How		現在までどうやって発展してきたのか
		さらに有効に利用するためにはどうすればよいのか

以上の検討から、この例では仮の論題として

『すべての企業はインターネットによるマーケティングに着手すべきか。』とすると、
背景として

「ネットのマーケティングにはメリット・デメリットがある」

「マーケティングの仕方によって企業のチャンスにもなるが、自社の存在を危うくするかもしれないと感じている企業もある」

「ネットでのマーケティングを模索している企業が数多くある。」などが挙げられる。

「しっかり設定できた「論題」ならば、
一貫して探究活動が進められる！」

Ⅲ.『論題(目的)』から『仮説』の設定へ

仮説の立証の意義「なぜ、仮説を立てるのか？」

- ・ 仮説を立てない探究・・・何を立証するかあいまいで、論点がずれかねない
- ・ 仮説を立てた探究・・・論点が絞られ、探究活動の本質が理解しやすい

仮説の立証「4QS(Four Question Strategy)法」

自然科学分野・社会科学分野の量的研究において、仮説を設定するにあたり重要なのは、観察・調査（アンケート）や実験を通して検証するための変数が論題の中に含まれている。つまり、科学的な探究が可能な論題にするためには、結果に影響を与える要因を量的に変化させ、その影響を受ける結果との量的関係（図1）に気づいて、仮説として表現する必要がある。この方法は疑問・課題に関係する複数の変数を分解して、関係性を明確にするのに役立つ。また、要因と現象を整理して考察すると、仮説を設定できる。この段階で立てた仮説を実験や調査により検証することで、スムーズな研究活動となる。

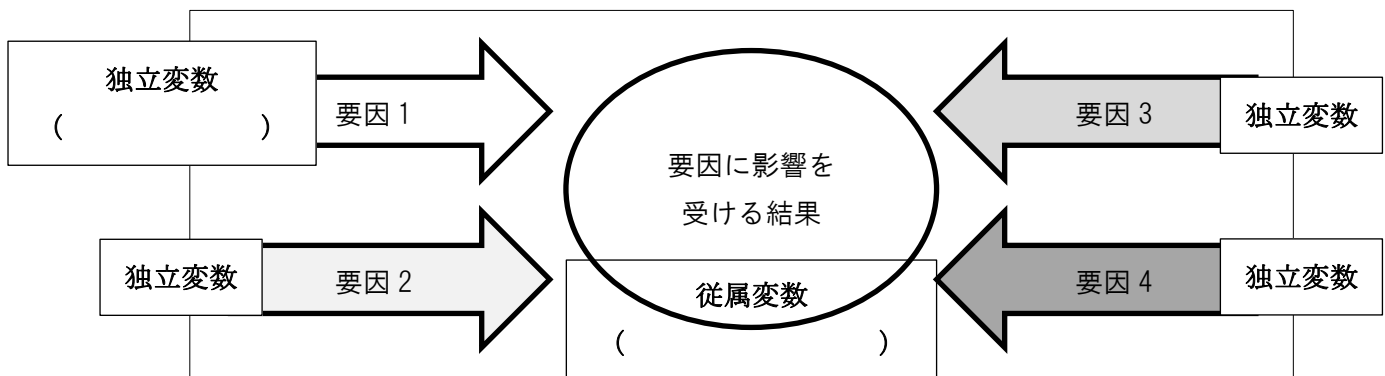
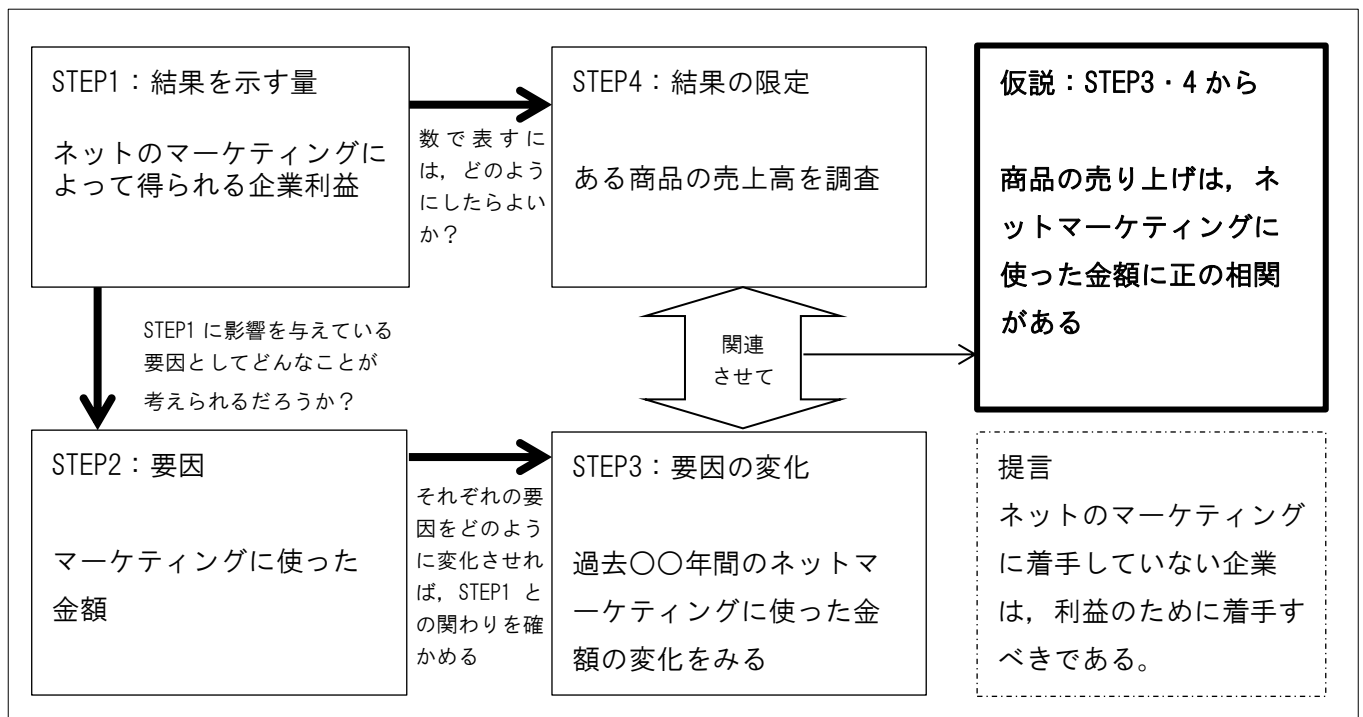


図1：科学的な探究が可能な論題における仮説設定（複数の独立変数が関係することもある）

例：仮の論題『すべての企業はインターネットによるマーケティングに着手すべきか。』



以上より、

『論題』として、「すべての企業はインターネットによるマーケティングに着手すべきか」

『仮説』として、「商品の売り上げは、ネットマーケティングに使った金額に正の相関があり、

マーケティングにお金を使うほど商品の売り上げが上がる」と考えられる

ここまできたら、実験・調査を行って『仮説』が正しいのかを検証＝探究が進められる。

複数ある要因のうち、

仮説立証のために必要な情報・データを取捨選択し、仮説を立証すべきである

例：キーワード＝『 』⇒文献調査⇒テーマ＝『 』

ぶつける質問		取り出される仮の論題
Who		
What		
When		
Where		
Why		
How		

以上の検討から、この例では仮の論題として『 』とする。